

「英語コミュニケーションⅠ」学習指導案

日 時 令和7年10月31日(金) 第5校時

場 所 1年7組 教室

対 象 福井県立若狭高等学校 普通科 1年7組

指導者 教諭 澤田 更紗

1 単元名 MY WAY English Communication Ⅰ (三省堂) Lesson 4 Messages from Winnie-the-Pooh

2 単元設定の理由

(1) 教材観

Lesson 4 Messages from Winnie-the-Pooh は、ディズニー版でも有名な「クマのプーさん」の原作であるイギリスの児童文学について取り上げ、物語の背景やそこに込められたメッセージについて書かれている。クリストファーロビンとプーの関わりから「他者をありのまま受け入れること」や「本当の友情とは」といったテーマについて対話を通して考え、英語で表現する機会としたい。

(2) 生徒観

1年7組は男子17名、女子19名の計36名の生徒からなる普通科クラスである。英語を苦手とする生徒も多いが、頑張っており取り組もうとする様子が見られる。これまで授業内では、日本語での p4c(子どものための哲学対話)の手法を使った対話を何度か行っており、ハワイの先生方や福井大学教職大学院の留学生を交えて対話を行ったこともあった。そういった場面でもしっかりと自分の意見を述べられる一方で、英語に限らず日本語であっても、自分の考えを持ったり、考えを深めるということについてはまだ苦手としている生徒もいる現状である。

授業においてはこれまで、主に効率性の面や明確な目的で日本語を用いる方が適当である場合を除いては英語で授業を行っているが、リスニングについては苦手な生徒が多くなかなか指示が通りづらいのが現状である。

(3) 指導観

前期は教科書の英文を正しく読むこと、基本的な単語や文法の獲得に取り組んできた。予習をしっかりと行うことで、単語や文構造の理解、リーディングの力の向上に取り組んでいる。また、プレゼン形式のパフォーマンステストに取り組み、自分の好きなものについて英語で話すという活動を行ったところ、しっかりと準備をして話す様子が見られた一方、形式的に話す形に留まってしまう様子もみられた。

また、前期では p4c 形式での対話をまずは日本語で行い、セーフティを高めることに取り組んできた。日本語での p4c におけるセーフティは概ね築けているため、後期より英語における対話にも取り組んでいきたい。

この単元では、まず初見で内容を読み T/F や Q&A などを通して推測しながら読むことに取り組んだ。単元の内容について生徒から出てきた問いで対話を行い、考えを深めるだけでなく、それを英語で話そうとする気持ち(英語に対する情動)を育成していきたい。また、今後この活動を継続していくことで、他者の背景や意見を認めながら対話を行う姿勢を持つ生徒を育成していきたい。

これまでの取り組みから、対話を通して学びたい気持ち(情動)が育まれることがわかっている。特にハワイ型の p4c 形式での対話は、クラス内にセーフティが確立されていないと難しく、ファシリテーションによってもその深まりが変わりやすい。一方、全員で問いを深めることができ、効果的に他者理解や情動を醸成することに繋がることがわかってきた。英語においても「自分が話したいことを伝える」という活動を通して、より英語を学びたいという気持ちにもつながっていることが、これまでの生徒のアンケートからも見られてきている。そこで、対話を通してそういった生徒の情動を育むことを目標に取り組んでいる。

学習指導要領においても、「主体的、対話的で深い学び」が明記されているが、対話を通して他者の意見を聞きながら、自分自身の考えの枠組みを揺さぶること、自分の考えを適切な言葉で示すことは、背景の異なる人々と話すために使う、英語という言葉や言語を学ぶ上でも必要である。

英語の授業における言語活動では、「英語で話す」ことに重きが置かれており、「英語を話すことへの情動」に関してはあまり重要視されてこなかった。情動とは学習者の学びたい意欲の基盤であり、他者との対話を通して培われていくものである。対話を通して、自身の考えの枠を広げることで、自分自身が本当に伝えたいことを英語で伝えることができるようになり、これは英語で表現することへの情動へと繋がる。

学習指導要領においても、外国語の目標は『「情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成すること』と述べられている。その中でも外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせることが大切であり、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」については以下のように書かれている。

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると考えられる。

対話を通して、自身の考え方の枠を揺さぶり、広げることで外国語を話す上で必要とされる物事の捉え方を形成していきたい。

また、英語の対話と日本語の対話の比較を行うことによって、言語についての認知能力であるメタ言語能力の向上や、自身が使う言語に対する認知の向上にもつなげていきたい。これらの力を向上させることで、コミュニケーションの基盤となる、情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝える能力を育成していくことも可能であると考えられる。

3 単元の目標

研究協議のテーマ「主体性をはぐくみ深い学びへとつながる指導と評価」

① 本文を通して、『クマのプーさん』の作者や作品のメッセージを理解できているか。

本文に出てきた単語や文法などの知識を正しく理解できているか。

【知識・技能】

② 本文の内容に対する自分の考えを適切に表すことができているか。

【思考力・判断力・表現力】

③ 授業で学んだ内容や対話の内容に対して自分なりの考えを持つことができているか。また、自分自身の考えについて相手に伝わるように話そうとする意欲が見られるか。

【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の評価規準

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③主体的に学習に取り組む態度
・本文を正しく読みとることができるか。 ・本文に出てきた単語や文法について正しく理解できているか。	・本文の内容に対する自分の考えを書いたり、話したりすることができるか。	・授業で学んだことを理解し、自分なりの考えを持つことができているか。 ・自分自身の考えについて相手に伝わるように表そうとしているか。

5 指導計画

指導内容	配当時間
Lesson4 part1 クマのプーさんのキャラクターについて知っていることについてペアで話し合う。 本文の内容を聞き、T/F に答える。内容を読んでパラメモをまとめたり Q&A に答えたりすることで、内容を理解する。文法項目について確認する。どのキャラクターが好きかについての英作文を書く。	2 時間
Lesson4 part2 本文の内容を聞き、T/F に答える。内容を読んでパラメモをまとめたり Q&A に答えたりすることで、内容を理解する。文法項目について確認する。part2 に出てきた場面の原作の文を読んで、その後プーがどのような発言をしたか推測してペアで話し合う。	2 時間
Lesson4 part3 本文の内容を聞き、T/F に答える。内容を読んでパラメモをまとめたり Q&A に答えたりすることで、内容を理解する。文法項目について確認する。part3 に出てきた場面の映像を見て感じたことについての英作文を書く。	2 時間
Lesson4 単元全体を通して考えを深める 本文を読んで疑問に思ったことをグループで話し合い、問いの形にする。また、それについて日本語で対話し、考えを深める。振り返りを書き、さらにそこから問いを深める。	2 時間
Lesson4 考えたことを英語で表現する p4c での対話や、生徒の振り返りを踏まえて、英語で自分の考えを話したり、英語で友達の意見に自分の意見を重ねて話す練習をする。	1 時間
Lesson4 英語での対話 P4c での対話や、生徒の振り返りを踏まえて、英語で対話を行い、自分の意見を英作文にまとめる。(本時)	1 時間

6 本時の目標及び評価規準

(1) 目標

- ア 英語を話そうという気持ちを高め、自分の考えを英語で表現する。
イ 『クマのプーさん』を通して筆者が伝えたかったことについて考えを深める。

(2) 評価規準

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容を正しく理解できているか。 他者の意見を正しく理解できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を適切に表現することができるか。 他者の意見に対して適切な質問や反応ができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に自分の意見を他者に伝えようとしているか。 問いに対して自分なりの考えを持つことができているか。

7 本時の展開

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動及び指導上の留意点	評価の観点	評価方法
5分	1. Greeting & Warm-up	<ul style="list-style-type: none"> 前回までの振り返り 子ども時代についてペアで話す。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回までの振り返り 活動の指示 	②③	・活動の観察
20分	2. Group discussion	<ul style="list-style-type: none"> OREO を使ってそれぞれの意見を考える。 グループで意見を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の指示 机間巡視 	①②③	<ul style="list-style-type: none"> 活動の観察 ワークシート
	問い1 : The character of Pooh shows children's ability.				
15分	3. Dialogue	<ul style="list-style-type: none"> クラス全体で対話を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の問いが深まるようにサポートする。 	①②③	・活動の観察
10分	4. Writing	<ul style="list-style-type: none"> 授業を振り返り、自分の考えを英作文として書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の指示。 机間巡視。 	①②	<ul style="list-style-type: none"> 活動の観察 英作文ノート
	問い2 : "What is the message from "Winnie the Pooh"?"				

8. 授業の観点

- 生徒が英語で話すことに対して意欲的に取り組んでいるか。
- 生徒が自分なりの考えを持ちそれを表現することができるか。

9 反省およびご高評

【参考資料】

- 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編」文部科学省 平成30年7月
- 豊田光世「p4cの授業デザイン 共に考える探究と対話の時間の作り方」、明治図書出版、2020年3月